

ある日のことである。一日で、さまざまな人に向けて話をした。まずは、職場体験に来てくれた中学生を園児たちに紹介する場での園長先生のお話である。時間は、1分ほどだっただろうか。話す相手は、園児である。次は、PTA環境委員会の保護者の方々である。除草作業の最初と終わりの挨拶である。時間にすると、両方足しても1分にもならない。午後は、小学校に行き、授業を参観し、先生方の協議を踏まえた上で指導助言をした。私に与えられた時間は20分間だった。そして、夜はというとソフトテニスクラブである。小学生と中学生に向けて大事な話をした。時間は、3分ほどだろうか。

話というのは、短い方がむずかしい。長く話す方がまだいい。この日、一番苦勞したのは、園児に向けての話である。いつも、園児への話で四苦八苦している。翻訳がむずかしい。言葉の変換がスムーズに行かない。

例えば、先日行われた6月の誕生会でのことである。例によって、“えんちょうせんせいのおはなし”があった。司会の子が、すばらしかった。そこで、その子をほめた。「成長したね」で失敗した。「立派だね」でまた失敗だった。最後は「かっこいい」にした。いずれも、通じているとは思えなかった。

では、何と云えばよかったのか。「上手に司会ができるようになったね」だろうか。通じていない、うまくいっていないと思ったら、その場で、瞬時に違う言葉に変換しなければならない。これが、簡単ではない。そもそも、園児たちが理解できるワードというものを把握できていないことが問題である。話すこちらが使用する語彙レベルの問題である。

園児に比べれば、小学生も中学生も、先生方も、保護者も、使う言葉には、さほどの苦勞はない。だが、小学生と中学生が一緒の場での話は、そう簡単ではない。どちらにも向けて話をする必要がある。

また、学校の先生方には、むずかしい専門的なことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく話したい。こちらの翻訳力の問題である。何よりも、先生方の心に火をつけなければならない。そう考えると、ハードルは高い。

実は、一番悩むのが、保護者への挨拶である。長く話すことはできる。除草作業の最初と最後に、長い話を期待する人などいるだろうか。保護者へのメッセージは、ワンフレーズである。それを何にするか。言葉の選択がむずかしい。

こうしてみると、相変わらず、人前で話すこと機会は多い。いつもうまくいかない。反省ばかりである。言葉を変換できるようにしなければならない。園児への話などは、むずかしいことをやさしくの最たるものだろう。話す相手によっても、言葉の変換が必要となる。小学生向けと中学生向けの使い分けである。

変換するには、こちらの語彙を増やしていかなければならない。修行である。今のところは、毎日、園児たちに鍛えてもらっている。自分の変換装置を少しでも性能のいいものにしたい。そのためには、常に頭を使わなければならない。言葉について考え続けなければならない。道は険しい。